

【特集】

認知症とともに生きる

あなたはあなたのままでいい——



いきいきサロンで、利用者との交流を楽しむ佐藤勝代さん。
毎回欠かさず娘の眞理子さんと参加しています。

国見町では、高齢者の人口割合が4割に達し、65歳以上の高齢者のうち270人が認知症と診断されています。認知症は高齢者だけでなく、若年性の認知症もあり決して他人事ではありません。いつまでも自分らしく国見町で暮らし続けるために大切なこと、一緒に考えてみませんか。

令和5年 新年のごあいさつ

国見町長

引地 真



明けましておめでとーございます。今年が皆さんにとって、良い一年でありますよう本心からお祈りします。新型コロナウイルスで、人と人のつながりの基本の「密」が疎まれて、寂しさや心細さを感じる日が続いています。何より、その寂しさや心細さが当たり前になってきていることに怖さを覚え、合を「密」を上手に避けながら、ふれ合いを保つ事業を続けています。生業や生活の不安へは、他市町村では対象としていない層をも含めた独自支援と上乘せ支援、町内経済循環のためのプレミアム商品券事業、農林畜産

業の下支えの補助事業などを拡充、新設しました。一方、他市町村に比べ劣っていると言われる子育て支援は、独自支援と事業新設、県内でも先駆けの学校給食完全無償化などの拡充、子育て世帯用の住宅建設に取り組んでいます。また、移住・定住策は、子育て世帯への独自支援と併せ、町営住宅を若者のワーケーション向けに改修する事業で対応しています。加えて、こういった国見町の取り組みを多くの人に知らせるための効果的送受信の手段も見直しを進めています。さらに、国見町に暮らす人たちの生活の質を向上させるための町内会要望にも、積極的に応えています。要望は幅広い内容ですが、命を大切に誰もが幸せに暮らせるまちづくりの実現のため、果敢に取り組みいたします。国見町は昨年4月に過疎の町に指定されました。でも、先達たちが、その時々で最良と判断しながら一所懸命に紡いできたまちづくりですから、恥じても失望していません。私たちが肝に銘じなければならないことは、過疎という事実を正面から受け止め、その上で国見町をもう一度デザインし直すことです。そのために国見町過疎地域持続的発展計画を策定しました。国見町を維持することと併せ大事にしたいことは、まずはこの町に

住む私たち自身が「国見って良いよね」と実感できる町にすることでしょう。国見に暮らす一人ひとりを大切にしながら、前例に拘らず、知恵を絞り、挑戦していくこととします。その挑戦の一つが、これまで国見町が後回しにしてきた子育てや教育環境の質を高めることです。子育てや教育に優しいまちは、高齢者にも優しいまち。そして、高齢者に優しいまちは、すべての人に優しいまちです。皆につながります。今、赤ちゃんから15歳までの子どもと一緒に育ち、学ば保幼小中一体型の『くにみ学園構想』を練り上げています。子どもを真ん中にした『国見だからこその育みと学び』を創造しようとしています。大事な事業ですから、丁寧な説明を心がけ、意見に耳を傾け、進めていくこととします。これまでのタウンミーティングで皆さんの頑張りを目の当たりにして、私たち行政はもっと皆さんの心の声を知り、優しく、頼られる存在にならなければ、と強く思います。一方、幸せなまちづくりは行政だけでは実現しません。皆さんの力が必要です。どうぞ、国見町を応援してください。お願いします。皆さんの幸せを祈り、お願いをして、年初のごあいさつとします。